「はあ……青森を出まして、今朝ようやくここまで着きました。」
野田は事情があって、青森県庁の役人をやめ、五郎より一と月あとに青森を出たが、一と月前に東京に着いていたのでした。
「こんな所で会うのも何かの縁じゃ、いつか私の家に来てみなさい。」
野田は五郎に住所を教えると、人力車の一行を追って立ち去りました。
東京には、親戚や知人がたくさんいるから、といって青森を出た五郎でしたが、来てみるとなんのあてもありませんでした。会うことを楽しみにしてきた四郎兄は、一ヵ月前に東京を去っていました。太一郎兄も出獄を許されたのを機会に、下北へ行っていることがわかりました。五郎は全身から力が抜けたようにがっかりしました。
上京後、最初にころがり込んだのは、青森から同行した土地調査官の市川正寧の家でした。次の日から、五郎は、世話をしてくれる人をさがして、広い東